

CA ARCserve Backup での ETERNUS VSS Hardware Provider サポートについて

版数 2.1.0 以降の ETERNUS VSS Hardware Provider (以降 ETERNUS VSSHP)を、富士通から購入された CA ARCserve Backup r15 / r16 / r16.5 (以降 ARCserve r15 / r16 / r16.5)のオフホストバックアップ機能と組み合わせてご利用いただく場合は、以下の方針でサポート対応します。

1. サポート方針

- ・ お問い合わせは、富士通 SupportDesk にて受け付け対応させていただきます。対応内容は、情報提供(後述の前提条件および留意事項)と、事例ベースでの問題調査支援です。事例のない問題の調査では、フィールドご担当主導での切り分け実施を依頼する場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- ・ ETERNUS VSSHP を使用したバックアップソリューション(運用設計など)の検討は、フィールドご担当で実施いただくことが前提です。システム構築にあたり、フィールドご担当にて、どのようにバックアップするかを十分ご検討いただき、さらに事前検証されることを推奨します。
- ・ 富士通において、ARCserve ARCserve r15 / r16 / r16.5 と ETERNUS VSSHP を使用したバックアップで動作確認した OS、サーバアプリケーション (ライタソフトウェア) は、後述の前提条件に記載の組み合わせのみです。掲載以外のサーバアプリケーションを使用する場合は、弊社営業に事前にご相談ください。
- ・ 他社から購入された ARCserve r15 / r16 / r16.5 をご利用のお客様は、販売元にお問い合わせください。

2. 前提条件

2.1.ARCserve r15

- 1) ETERNUS VSSHP を利用した ARCserve r15 のトランスポートابل (転送可能) バックアップには、以下の製品が必要です。
 - ① CAARCserve Backup r15 for Windows - Japanese
 - ② CAARCserve Backup r15 for Windows Enterprise Module - Japanese
 - ③ CAARCserve Backup r15 Client Agent for Windows - Japanese
 - ④ CAARCserve Backup r15 for Windows Agent for Open Files – Japanese

- 2) ARCserve r15 がサポートするサーバ構成は、業務サーバとバックアップサーバを別の Windows マシンとする構成のみです。
- 3) バックアップサーバと業務サーバの両方に、同一の OS/エディションがインストールされており、さらに、最新の Microsoft Volume Shadow Copy Service (以降 VSS) パッチが適用されている必要があります。
- 4) 富士通において、ARCserve r15 と ETERNUS VSSHP を使用したバックアップで動作確認し、サポート対象とした OS、サーバアプリケーション (ライターソフトウェア) は、以下のとおりです。
 - [サーバアプリケーション (ライターソフトウェア)]
 - ①SqlServerWriter (Microsoft SQL Server 2005/Microsoft SQL Server 2008)
 - ②Microsoft Hyper-V VSS Writer
 - [バックアップメディアサーバ OS]
 - ①SqlServerWriter
 - Windows Server 2008 Standard/Enterprise (x86) SP1
 - Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise
 - ②Microsoft Hyper-V VSS Writer
 - Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise
 - [業務サーバ OS]
 - ①SqlServerWriter
 - Windows Server 2008 Standard/Enterprise (x86) SP1
 - Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise
 - ②Microsoft Hyper-V VSS Writer
 - Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise
- 5) SqlServerWriter での運用では、クラスタ環境での利用は未サポートです。

2.2.ARCserve r16

- 1) ETERNUS VSSHP を利用した ARCserve r16 のトランスポートブル (転送可能) バックアップには、以下の製品が必要です。
 - ① CAARCserve Backup r16 for Windows - Japanese
 - ② CAARCserve Backup r16 for Windows Enterprise Module - Japanese
 - ③ CAARCserve Backup r16 Client Agent for Windows - Japanese
 - ④ CAARCserve Backup r16 for Windows Agent for Open Files – Japanese

- 2) ARCserve r16 がサポートするサーバ構成は、業務サーバとバックアップサーバを別の Windows マシンとする構成のみです。
- 3) バックアップサーバと業務サーバの両方に、同一の OS/エディションがインストールされており、さらに、最新の Microsoft Volume Shadow Copy Service (以降 VSS) パッチが適用されている必要があります。
- 4) 富士通において、ARCserve r16 と ETERNUS VSSHP を使用したバックアップで動作確認し、サポート対象とした OS、サーバアプリケーション (ライターソフトウェア) は、以下のとおりです。
 - [サーバアプリケーション (ライターソフトウェア)]
 - ①SqlServerWriter (Microsoft SQL Server 2005/Microsoft SQL Server 2008)
 - ②Microsoft Hyper-V VSS Writer
 - [バックアップメディアサーバ OS]
 - ①SqlServerWriter
 - Windows Server 2008 Standard/Enterprise (x86) SP1
 - Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise
 - ②Microsoft Hyper-V VSS Writer
 - Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise
 - [業務サーバ OS]
 - ①SqlServerWriter
 - Windows Server 2008 Standard/Enterprise (x86) SP1
 - Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise
 - ②Microsoft Hyper-V VSS Writer
 - Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise
- 5) SqlServerWriter での運用では、クラスタ環境での利用は未サポートです。

2.3.ARCserve r16.5

- 6) ETERNUS VSSHP を利用した ARCserve r16.5 のトランスポートブル(転送可能)バックアップには、以下の製品が必要です。
 - ⑤ CAARCserve Backup r16.5 for Windows - Japanese
 - ⑥ CAARCserve Backup r16.5 for Windows Enterprise Module - Japanese
 - ⑦ CAARCserve Backup r16.5 Client Agent for Windows - Japanese
 - ⑧ CAARCserve Backup r16.5 for Windows Agent for Open Files – Japanese

7) ARCserve r16.5 がサポートするサーバ構成は、業務サーバとバックアップサーバを別の Windows マシンとする構成のみです。

8) バックアップサーバと業務サーバの両方に、同一の OS/エディションがインストールされており、さらに、最新の Microsoft Volume Shadow Copy Service (以降 VSS) パッチが適用されている必要があります。

9) 富士通において、ARCserve r16.5 と ETERNUS VSSHP を使用したバックアップで動作確認し、サポート対象とした OS、サーバアプリケーション (ライターソフトウェア) は、以下のとおりです。

[サーバアプリケーション (ライターソフトウェア)]

①SqlServerWriter (Microsoft SQL Server 2005/Microsoft SQL Server 2008/
Microsoft SQL Server 2008 R2)

②Microsoft Hyper-V VSS Writer

[バックアップメディアサーバ OS]

①SqlServerWriter

Windows Server 2008 Standard/Enterprise (x86) SP1

Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise

Windows Server 2012 Standard/Datacenter (Microsoft SQL Server 2005 を除く)

②Microsoft Hyper-V VSS Writer

Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise

Windows Server 2012 Standard/Datacenter

[業務サーバ OS]

①SqlServerWriter

Windows Server 2008 Standard/Enterprise (x86) SP1

Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise

Windows Server 2012 Standard/Datacenter (Microsoft SQL Server 2005 を除く)

②Microsoft Hyper-V VSS Writer

Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise

Windows Server 2012 Standard/ Datacenter

10) SqlServerWriter での運用では、クラスタ環境での利用は未サポートです。

3. 留意事項

3.1.ARCserve r15

1) 本機能によるトランスポート可能な VSS バックアップを行うために

は、各サーバで以下の製品をインストールします。

なお、CA 社が提供しているモジュール「CA ARCserve Backup r15 SP1 for Windows (RO27179)」には、製品パッケージに同梱しているメディアの内容も統合しています。

次の 2) に記載した手順で、それぞれのサーバへ各製品をインストールしてください。(ライセンスキーの登録は、製品パッケージに同梱されているものを使用します)

[バックアップサーバ]

- CAARCserve Backup r15 for Windows - Japanese
- CAARCserve Backup r15 for Windows Enterprise Module - Japanese

[業務サーバ (Hyper-V サーバ / Microsoft SQL サーバ)]

- CAARCserve Backup r15 Client Agent for Windows - Japanese
- CAARCserve Backup r15 for Windows Agent for Open Files - Japanese-

2) CA 社が提供している次のモジュールをインストールしてください。

① RO27179

- モジュール入手先

[CAARCserve Backup r15 SP1 for Windows \(RO27179\)](#) [日本 CA 社]

- 適用対象

バックアップサーバおよび、業務サーバのそれぞれに適用します。

- 適用手順

1. 上記「モジュール入手先」より、AB_15_1_JPN.iso をダウンロード後、そのファイルを DVD-R/RW などの書き込み可能メディアに書き込み、メディア内の setup.exe を実行し、各サーバへ必要な製品のインストールおよび、ライセンス登録を行います。

② RO28850

- モジュール入手先

[WIN-JOB FAILS WHEN BACKUP A HDVSS NODE \(RO28850\)](#) [米国 CA 社]

- 適用対象

バックアップサーバに適用します。

- 適用手順

1. 上記「モジュール入手先」より、パッチモジュール RO28850.caz をダウンロード後、任意の作業用フォルダに保存し、「CAZIPXP ユーティリティ ([CAZIPXP ユーティリティの使い方と .CAZ ファイルの解凍方法](#) [日本 CA 社へリンク])」でファイルの圧縮解凍処理を実施してください。

2. 「RO28850.exe」を実行し、パッチモジュールを適用します（ウィザード形式でインストールが実行されます）。

3.2.ARCserve r16

1) 本機能によるトランスポート可能な VSS バックアップを行うためには、各サーバで以下の製品をインストールします。

[バックアップサーバ]

- CAARCserve Backup r16 for Windows - Japanese
- CAARCserve Backup r16 for Windows Enterprise Module - Japanese

[業務サーバ (Hyper-V サーバ / Microsoft SQL サーバ)]

- CAARCserve Backup r16 Client Agent for Windows - Japanese
- CAARCserve Backup r16 for Windows Agent for Open Files - Japanese-

3.3.ARCserve r16.5

1) 本機能によるトランスポート可能な VSS バックアップを行うためには、各サーバで以下の製品をインストールします。

[バックアップサーバ]

- CAARCserve Backup r16.5 for Windows - Japanese
- CAARCserve Backup r16.5 for Windows Enterprise Module - Japanese

[業務サーバ (Hyper-V サーバ / Microsoft SQL サーバ)]

- CAARCserve Backup r16.5 Client Agent for Windows - Japanese
- CAARCserve Backup r16.5 for Windows Agent for Open Files - Japanese-

3.4.ARCserve バージョン共通

1) SqlServerWriter を使ったバックアップ時の留意事項

- **SQL Server** データベースのデータ（インスタンス ルートディレクトリ、または、データ ディレクトリ）は、業務サーバ側のコピー元となる **ETERNUS** のディスク（業務ディスク）上に置いてください。

なお、業務ディスク以外にも **SQL Server** のデータが存在する場合は、業務ディスク上にデータがあるインスタンスより、個々にデータベースを選択してバックアップしてください。（SqlServerWriter 全体を選択するとバックアップが失敗します）

2) Hyper-V VSS Writer を使ったバックアップ時の留意事項

- バックアップ対象は、**Hyper-V** サーバ側の **ETERNUS** ディスク（CSV ポリューム内）の仮想マシンのみです。

- 3) 可移植な VSS バックアップを行う場合は、バックアップジョブ設定時に以下の設定を行います。

設定場所	設定内容
「ソース」タブ SqlServerWriter または Microsoft Hyper-V VSS Writer の「ライター オプション」	「可移植 スナップショットを使用する」を有効
「デスティネーション」タブ	「マルチストリーミング」を有効 (最大ストリーム数は 1 以上)
	「メディアプール」で任意のメディアプール名を指定

- 4) SqlServerWriter および Microsoft Hyper-V VSS Writer のライターオプション内の「バックアップ後にシャドウ コピーを保持する」オプションは未サポートです。
- 5) バックアップのグローバルオプション～「ボリューム シャドウ コピー」タブの設定は、可移植 スナップショットを使用するバックアップに対しては無効となります。
- 6) リストアする際、リストアマネージャーで「ソース」を選択する時、「セッション単位」方式を選択してください。
「ツリー単位」方式では「バージョン履歴」でバックアップを選択した際に、ソース ツリーが正常に表示されません。
- 7) SqlServerWriter を使ったリストア時の留意事項
- ・ master データベースをリストアする際は、あらかじめリストア対象の SQL Server インスタンスのサービスを停止してください。なお、シングルユーザーモードでリストアする必要はありません。
- 8) ca_backup コマンドは未サポートです。

その他、各種マニュアル等に記載の留意事項、条件にしたがってご利用ください。

以上